

五軍の兩翼に作戰し正に方面軍を擧げての盤決戦に發展せしめられることが予想せられ、才十五軍首腦は方面軍の斯かる作戰指導に多大の期待を寄せて居た。才十五軍が最も憂慮して居たのは方面軍が海岸正面に主作戰を指導する場合（完作戰）であつた。戦力微弱なる三箇師団を以て廣大なる正面に於て持久を完うすることは不可能に近い任務であつた。

印支ルート 復治
再興

才三十三軍の暹町の反擊作戰

才十五軍方面に於て盤作戰の膽立てが慌しく進んで居る秋、才三十三軍正面に於て、印支ルートの暹町の連接する爲の最後の奮戦が行はれて居た。十二月中旬パーモ守備隊の救出に成功した才三十三軍は、才五十六師団を以てセンウイ周辺を、山崎支隊を以てナ

ンカン周辺を占領し芒市、センウイ正面の遠征軍とパーモに進出せる^{二二}
米支軍に対し持久態勢を占めて居た。オ十八師団主力は西方モンミツ
ト周辺に於て敵と対峙して居た。オ五十六師団正面遠征軍は^宛町を包
囲し更に瑞麗江の北岸に溢出し、その重圧は愈々急を告げて居た。
木村方面軍司令官は此の情勢と戦力減耗甚だしいオ三十三軍の現状に
鑑み、十二月末、オ二師団の一部（一刈聯隊）及びオ四十九師団の一
部を引続きオ三十三軍に配属する命令を下達した。オ三十三軍はその
兩部隊をオ二線部隊としてセンウイ附近及其の西方に陣地を占領せし
めた。昭和二十年の元旦を迎へるや、遠征軍は愈々總攻撃を再興せん
としつゝあること^{モン}モン方面に於て瑞麗江を渡河すべく準備中なるこ
とを知り、是をその半渡に撃破すべく吉田部隊を以てモンミツトを、

2002

一刈部隊を以てナンカン東南方のナンバツカを占領せしめ戦機の到来を待つて居た。幸に敵の企圖動向はその暗号電報の解読に依り手に採る様に明かに承知することが出来た。才三十三軍の巧妙なる内線作戦は實に此の情報の裏づけを得て確信を以て断行された。元旦早々十数倍の敵は曉町の陣地を猛攻した。才三十三軍はこの敵をその陣内に於て諸敵紛戦乱斗の後これを撃滅し辛じて陣地を確保することが出来た。

モンミットの反撃

敵は此の間モンミット正面から約二箇師団を

以て一月五日、渡河を開始して居た。豫て敵の此の行動を予期し満持(新オハリ長中隊中將)して待機して居た才十八師団長はその全砲兵を以て集中砲火を浴びせたる後二箇聯隊を以て敵の半渡を攻撃し甚大なる損害を與へて北岸に撃退した。